

# JICAガーナ 事務所ニュース

## 目次

### 次長の一言

#### 1. 最近の動き

- CG 会合
- HIV/AIDS 広域研修
- TVET フォーラム開催！～ガーナの未来のために～
- シエラレオネ「カンビア地方給水整備計画」概要説明調査
- 「天水稻作持続的開発プロジェクト」帰国研修員訪問

#### 2. 健康管理便り

- ガーナにおいて食生活で注意すること～隊員の健診結果から～

#### 3. ボランティア便り

- 第 16 回ベスト・ティーチャーズ・アワード授賞式

## 次長の一言

一時帰国中の所長に代わり、今月の一言を担当します。この 1 ヶ月を振り返ってみて大きなイベントとしては、何と云ってもミルズ大統領の訪日でしょう。就任後初の訪日であり、10 年に 1 度の国勢調査（センサス）開始時の立会いのために、中国から一度ガーナに戻った後に日本へ、という厳しいスケジュールでの訪日です。10 月 1 日には緒方 JICA 理事長との面会も行われ、JICA の対ガーナ支援に感謝の言葉が述べられた上、同席したガーナ閣僚からエネルギー、インフラ等の分野への協力が要望されました。

今回の訪日は今年 3 月の皇太子殿下のガーナご訪問に続いて、日本とガーナの信頼ときずなをさらに強める貴重な機会となったと共に、日本政府から、2000 年以降停止していた円借款の再開に向けての検討の開始や、野口英世博士の生誕地である福島県との連携により、ガーナ人研修員を 3 年間で 100 名以上追加での受入が表明されました。また、民間ベースでも今年末からの石油供用開始を目前に、日本からの投資や貿易の拡大を期待

する声が高まってきており、日本から民間企業の合同ミッションが派遣されたり、アクラに商社等日本企業のオフィスが徐々に立ち上がりつつあります。

この時期、事務所関係者の異動も多く、インフラ分野と評価分野の在外専門調整員の交代、新人海外 OJT 生の帰国、1 人目のインターンの帰国、4 人目のインターンの着任がありました。専門家や JOCV の皆さんには現場でいろいろとお世話になり、本当にありがとうございました。今後とも事務所として JICA 事業の積極的なアピールと活動の支援を進めたいと思います。引き続きご協力をお願いします。

間もなく雨季が終わり、暑く長い乾季が始まる模様ですが、アクラは強い日差しが続くかと思えば一日中曇ったり、不順な天候が続いており、そのせいか風邪が流行っているようです。くれぐれも健康と安全には留意してください。

(次長 佐藤)

## 1. 最近の動き

### ● CG 会合

9月23・27日アクラ市内で2010年ガーナ支援国会合（Consultative Group/Annual Partnership Meeting：以下CG会合）が開催されました。CG会合は政府とドナーの代表が一堂に会して開発の重要課題を話し合う年一回の重要な会合です。昨年は政権交代の影響で見送られ、今年は2年ぶりの開催でした。23日は実務レベル、27日はハイレベル会合で、政府側から副大統領、財務・経済計画大臣、中央銀行総裁、国家開発計画委員会議長等、ドナー側から主要援助機関長や大使、さらにNGOや報道機関等が出席しました。

議論は、

1. ミレニアム開発目標（MDGs）の進捗
  2. 中期国家開発政策枠組み
  3. 調和化・援助効果向上
- の3つの柱でおこなわれました。

まず、1. MDGsに関しては9月に発表されたMDGs報告書にもとづき貧困割合減少の一方で、地域格差や、MDGs4（5歳未満児死亡率）、5（妊産婦死亡率）、7（森林資源管理・衛生）の達成が課題である点が報告されました。

2. 中期国家開発政策枠組み（MTNDPF/GSGDA I：2010～2013）は、GPRSIIの後継となる国家開発政策文書です。今回発表された最終案では、戦略的方向性として農業近代化や天然資源の持続的活用にもとづく工業化によって構造転換をめざすこと、またインフラ開発と人間開発、および科学技術によって雇用・所得機会を拡大することを挙げています。

3. 調和化・援助効果向上は、援助政策の最終案が発表され、ガーナの制度を用いた援助実施、ドナー側の取り組みに対する査定（DP-PAF）等につき議論がなされました。また、中国、インドなど「新興」ドナーの存在感上昇にともなう援助環境の変化が強く印象づけられました。

今年の会合で画期的だったのは、「中所得経済への移行と新興石油セクターの管理：国家開発の維持におけるODAの役割」との開催テーマが示すとおり、ガーナが中所得国・産油国への移行という「歴史的」転機を迎えつつある点が初めて確認されたということです。ガーナでは今年後半に石油生産開始を控え、石油収入をいかに持続的発展に結びつけ、アフリカ産油国にしばしばみられる混乱や不平等の拡



CG 会合の様子（Mr. Daniel Anobil 氏より提供）

大を避けるかが問われています。

一方、中所得国化は、政府が予定している GDP 算出方法の更新に伴って GDP が大幅に増加することによるもので、実質的な経済規模の拡大や経済構造の転換、貧困削減の達成等を意味するわけではありません。しかし中所得国になればドナー諸国の援助方針が変更され、援助額の減少や条件の厳しい借款への移行、財政支援の減少等につながる可能性があります。

中所得国化を目前にしつつも、石油のもたらすリスクや、人々の期待が高まる一方で残る格差、MDGs 達成の遅れ、対外債務や政府未払い金の累積などの問題に鑑みれば、現在のガーナは、機会と同時に、厳しい試練に直面しているともいえます。会合では、ガーナがこの移行期を乗り切り、援助からの卒業を果たすにあたって、援助が当分は重要な役割を果たし続けること、特に政府の能力強化が喫緊の課題であることがこれまで以上に強調されました。ガーナが新たな機会を活かして次の段階へ移行するためにも、これからは政府能力の強化に向けて、重要性の高い協力を、さらに確実に実施していくことが求められています。

(企画調査員 織田)

#### ● HIV/AIDS 広域研修

サブサハラアフリカ地域エイズ対策関連広域研修が 10 月 4 日～9 日の 6 日間、アクラで開催され、計 8 カ国(ボツワナ、エチオピア、ガーナ、ケニア、マラウイ、セネガル、ウガンダ、ザンビア)から隊員とカウンターパート合わせて 32 名が参加し、『効果的なコミュニティ活動連携型 Outreach Counseling & Testing の促進と実施に向けて』というテーマのもと、情報共有や活発な意見交換がなされました。



グループワークの様子

ガーナでは HIV 対策のうち HIV Counseling & Testing (以下 CT)を HIV 予防、治療、ケア、サポートが重点項目とされています。しかし、CT の受検は全人口の 10%未満にとどまっています。受検率を向上させるため 2009 年 2 月に CT 受検無料化へ踏み切り、草の根レベルの活動やコミュニティのイベント時にも CT を同時実施する Outreach CT が強く推奨されるようになりました。エイズ対策隊員の活動現場でもこの Outreach CT が実施され、多くの人々が CT サービスにアクセスできるようになりました。

ただ、多くの隊員は Outreach CT サービス提供者が受検者数を獲得することに注力しがちで、本来サービスにとって重要であるべき CT や HIV に関する事前教育、プライバシーの保護、リファールシステム<sup>1</sup>の構築等を軽視しがちであると問題意識を抱えていました。今回の広域研修では異なる知見・フィールド経験を持つ各国の隊員とカウンターパートをガーナに招き意見交換を行いました。

<sup>1</sup> リファールとは、下位レベルの医療機関で治療が難しい患者を早い段階で発見し、上位レベルの医療施設に送り、適切な治療を早い段階から行うためのシステム。



研修では以下の3点を実施しました。

1. アフリカ諸国の Outreach CT の現状と課題を整理しグッドプラクティスの分析・共有。Ghana AIDS Commission や National AIDS/STI Control Programme からの講義、各国の事情発表やワークショップを行いました。
2. より効果的な Outreach CT の促進、実施するための能力と技術の取得。NGO の Planned Parenthood Association of Ghana(以下、PPAG) による Outreach CT の手法・具体的事例紹介やグループワーク、ケープコーストでのフィールドビジットを実施しました。
3. 研修成果の任地への還元及びカウンターパートとエイズ対策に関わるJOCV2の協働の促進。隊員とカウンターパートが協同でアクションプラン作成と発表を行いました。



フィールドビジット(ケープコースト)

印象的だったのは課題抽出ワークショップで HIV 感染率等、各国の事情は異なりますが、Outreach CT や CT においては似たような課題をそれぞれ抱えていたことでした。また、研修の最後にはエイズ対策支援委員会角井信弘氏から『Outreach CT ではサービス提供者ではなく、ターゲットであるクライアントを常に中心に据え、彼らを巻き込みながらどのように促進すべきかを考える必要がある』というメッセージが送られました。

研修修了後、ウガンダの隊員は『今回の研修に参加したことは私とカウンターパートにとって大変良い経験となり今後の活動へつなげる良い機会となりました。ウガンダへ戻ったらここで得た情報や経験を他の隊員や配属先の同僚等に伝えていきます。』と振り返っていました。研修の企画運営には大変な努力が必要でしたが、ガーナのカウンターパートのみならず他国の隊員とカウンターパートを巻き込んだ研修を開催することができました。開催国ガーナの隊員にとって大きな経験となり、今後の活動へつなげる糧をたくさん得ることができたと思います。(JOCV 隊員 白井美穂)

### ● TVET フォーラム開催！～ガーナの未来のために～

9月28日、ALISAホテルにてTVET<sup>3</sup>フォーラムが開催されました。今回のフォーラムは、現在ガーナで改革が進んでいるTVETセクターの動きを広く関係者に知ってもらおうとCOTVET<sup>4</sup>が主催したものであり、当日はガーナ国家開発計画委員会議長のP.V. Obeng 氏を初めとするガーナ政府要人や大使館・ドナー関係者、

<sup>2</sup> JOCV は青年海外協力隊 (Japan Overseas Cooperation Volunteers) の略称。

<sup>3</sup> TVET(Technical and Vocational Education and Training: 技術教育・職業訓練)は職業に直接関係する専門的技術や技能の習得・向上を目的に行われる教育及び訓練のこと。

<sup>4</sup> COTVET (The Council for Technical and Vocational Education Training) は産業人材育成の監督調整機関。



参加者の前でスピーチを行う J.K. Annan 教育副大臣



スピーチを行うガーナ JICA 事務所山内所長

TVET校、産業界代表者及びマスコミ関係者等総勢 200 名の参加がありました。

JICA は 2007 年 4 月から技術教育制度化支援(TVETS)プロジェクトを通じて TVET 実施機関の組織能力強化及び試行訓練をこれまでに行っていることから、本フォーラムについても積極的に支援を行いました。また、今回は SDF(Skill Development Fund)設立のお披露目発表が同時に行われ、この基金を支援している世銀やデンマークからも共催者として本フォーラムに参加がありました。SDF とは、ガーナ全体の技能向上のために企業及び TVET 校に対し必要な資金を供給するメカニズムです。

COTVET 事務局長である Danniell Baffour-Awuah 氏は、「TVET 改革の目的は、需要主導型 TVET を達成すべく産業界との連携を強化し、またインフォーマルセクターやノンフォーマル教育も産業技能開発のアクターとして含めて捉えていくこと、持続可能な TVET 関連の資金を確保していくこと」と述べた上で、「こういった改革がグローバル社会の中で競

争性のある産業スキルの開発や雇用の拡大と貧困削減に貢献していく」と TVET 改革の必要性を関係者に訴える場面がありました。この他、ガーナのさらなる発展のために産業界に必要な人材を教育・訓練する TVET の重要性が日に日に増していることについて、教育省、雇用社会福祉省、環境科学技術省、TVET 校、産業界それぞれの立場からの見解が述べられました。また、TVETS プロジェクトの副総括である永井専門家からは現在実施中のプロジェクトの紹介等があり、これに対し質疑応答の中で JICA に対する TVET セクター分野での継続的な支援を期待する声もありました。

今回の TVET フォーラムは 2007 年の COTVET 設立以来、彼らが主催した会議としては最も大きな会議であり、この若い組織が COTVET 事務局長による強力なリーダーシップの下、必要とされる産業人材の輩出のために息もつかずに多数の関係機関との調整や自身の能力向上のために走っている姿を垣間見ることができました。JICA では引き続き未来へ向かって走り続ける COTVET のパートナーとして、SDF を支援している世銀やデンマーク等とも協調しながら TVET セクターを支援していきたいと考えています。

(ガーナ事務所 福原所員)



### ● シエラレオネ「カンビア地方給水整備計画」概要説明調査

10月17日から22日まで、無償資金協力「カンビア地方給水整備計画」の概略設計概要説明調査<sup>5</sup>が行われました。本プロジェクトは、カンビア県の県庁所在地カンビア・タウン(約2万人)に浄水施設を建設し、エネルギー・水資源省及び県議会と共に水道事業を実施する公益法人の設立を進めていくものです。

浄水施設の規模や区域の設定等、詳細設計については、5月にカウンターパートと相談しながら調査を行ったため、速やかに合意が得られました。むしろ、今回の調査では、実際の建設事業にむけて、土地利用許可や建設予定地の整地などのシエラレオネ政府の負担事項や、公益法人の設立準備の確認を行いました。同法人の設立については、既に地元の学校や女性組合の代表からなる作業部会が発足し、彼らによって規定や水道料金等を定める法令(案)が作られていました。これは本プロジェクトに対する地元の期待と共に、高いコミットメントの表れともいえます。

シエラレオネの地方農村部では、給水施設の老朽化や維持管理の不備等により、給水率が32%と低迷を続けています。本プロジェクトで取り組む「緩速ろ過方式による浄水施設と、公益法人の設立」というハードとソフトを組み合わせたアプローチは、持続可能性も高く、他地域への汎用性も高いため、カウンターパートへの確実な技術移転を通して、多くの人々への安全かつ安定した水供水を目指して歩んでいきたいと思えます。



カンビア県ロクプール市内の公共水栓



ミニッツ署名の様子(エネルギー・水資源省大臣・カンビア県議会議長・涌井団長)

(シエラレオネ企画調査員 立田)

### ● 「天水稲作持続的開発プロジェクト」帰国研修員訪問

「日本での学びをガーナの農家に伝えたい。」日本から帰国したばかりの研修員、チャールズさん(40)が力強く答えてくれた言葉です。アシャンティ州スブリソ地区農業普及員のチャールズさんは、今年8月25日から約1ヶ月間に亘り山形県を拠点とした稲作「収穫後処理研修」に参加しました。今回の研修は日本の稲作についての英語講義や圃場でのデモンストレーション、農家訪問など、日本の稲作技術を実践で学ぶ研修で、英語圏アフリカから9名が参加しました。

1994年からカカオやキャッサバ、ヤムイモ、コメなど主要作物の農業普及員に携わっているチャールズさんは、16年の経験と、毎日の農家訪問と指導から、現場を知り尽くす人物です。また、ガーナのJICA農業プロジェクト「天水稲作持続的開発プロジェクト」のカウンターパートでもあります。

<sup>5</sup> 本プロジェクトは、12月に閣議請議予定でありこれをもって開始されます。



集会後のスプリソの農家グループ

チャールズさんが帰国して1週間の10月6日(水)、チャールズさんと彼の担当地区であるスプリソを訪れ、JICAプロジェクトに参加する農家グループの定期集会日に参加しました。この日はチャールズさんから担当農家グループへ、山形での研修、また日本の稲作の現状について報告がありました。集まった18名の農家は皆興味津々で、彼の日本での経験に耳を傾けており、説明が終わるや否や農家からは日本の技術やコメの品質や違いについて質問が飛び交いました。農家グループの代表は、「コメは農家自身の主食にもでき、また年に2回の収穫が可能で、一年を通して収入を得ることができる。」とコ

メントし、スプリソでは稲作に対する期待は高いようです。農家グループは、これまで日本人専門家が指導した稲作技術(耕うんや代かき、播種や施肥の方法など)を次の耕作期に取り入れたいと、口を揃えて言っており、これまでの伝統的な方法に比べ、収量のアがるとの期待が大きいように感じました。

農業普及員であるチャールズさんは、日本から持ち帰った様々なアイデアを持っています。「これからも農業普及員として農民に近い立場で、彼らの技術支援や農家組織作りに携わっていきたい。」そう語ってくれたチャールズさん。現地の農家をよく知るカウンターパートと技術を持つ日本人専門家の双方の協力で、現地に合った稲作技術の移転と普及を支えていきたいと考えています。

(農村開発部 苗村所員)

## 2. 健康管理便り

### ● ガーナにおいて食生活で注意すること ~隊員の健診結果から~

隊員の健康診断をしていて感じることは、ガーナの食生活は、けっして健康的ではないということです。今年8月に約42名の隊員の健診を実施しました。その結果、57%の人が尿検査や貧血、高コレステロールなどの異常がありました。そのうち、総コレステロール値が高かったのは、13人で、全体の31%を占めました。高い人のほとんどは、日本にいる時から高めだったようです。しかし、ガーナに来てから、値が急に悪化してしまった人が多いです。

この原因は、明らかに、ガーナの食事ですが、なかでも、パームオイルは、ガーナ食の多くの食物に入っており、悪玉コレステロールを増加させると言われています。実際、パームオイルを1ヶ月とらない食事をした結果、コレステロールが正常値にまで下がった人が数人います。次に、野菜不足です。また、健康のためと、卵を食べ過ぎている人もいます。せっかくガーナにいるからと、現地食ばかりを食べていると、健康にいいとは言えません。自炊したり、野菜をたくさん食べるなどの工夫をしながら、ガーナの食生活を楽しんでください。

(健康管理員 東瀬)

### 3. ボランティア便り

#### ● 第16回ベスト・ティーチャーズ・アワード授賞式

10月5日にイースタン州コフォリデュアにて開催されました、第16回ベスト・ティーチャーズ・アワード授賞式の様子をご報告させていただきます。

日本ではあまりなじみがありませんが、10月5日は1994年以降ユネスコによって世界教師の日(World teachers' day)と定められています。ガーナでは毎年この日に合わせ全国各地から選抜された教員をベストティーチャーとして表彰しており、今回私は外国人部門の受賞者として式典に参加いたしました。式典の会場は毎年国内の各州が持ち回りでホストを務めることになっており、今年はイースタン州でした。受賞者は式当日の数日前より現地を訪れ州内の観光や大統領官邸への表敬訪問を行い、当日の授賞式では副大統領が主賓を務めその様子がGTVで生中継されるなど、国内の注目度の高さを実感しました。またホストであるイースタン州の方々からも受賞者に対する手厚い歓迎を受け、州を挙げて式の成功を目指す姿勢を強く感じました。



授賞式の様子。左から VSO、Peace Corps 各代表と岩佐の外国人部門受賞者



授賞式当日会場に祝福しに来てくれた配属先の同僚教員の方々と

国内教員の受賞者の方は皆学校、郡、州の各選抜段階を勝ち抜き、家族や配偶者、所属の学校関係者とともにこの日人生の晴れの舞台に臨まんと集まった方々ばかりでした。そのような方々と共に賞を受賞させていただいたことは私にとっても非常に名誉なことであり、また何より嬉しかったのは、式当日に私の配属先の学長と同僚の教員の方々が遠いところわざわざ授賞会場にいらしてくださったことでした。受賞後同僚からかけてもらった祝福の言葉は私にとって何物にも代えがたい宝物であり、このガーナで教師として活動してきて本当によかったと思うことができました。

今回の受賞はひとえに配属先の教職員・学生、ガーナ協力隊の皆様、調整員はじめ JICA 事務所関係者皆様、そして日本で応援してくれている家族や友人知人、皆様からのご支援の賜物であると思いません。関係者の皆様に心から感謝致します。  
(JOCV 隊員 岩佐大助)